

## はじめに

私たちは、世界史を受験科目として選択し、早稲田大学の入試に果敢にチャレンジしようとする全ての受験生の皆さんに、この1冊の問題集を贈ります。

問題集の名は、「早稲田大世界史」。

今、この問題集を手を取った皆さんの胸中には、難問に立ち向かっていかなければならないことへの不安と、合格に向かって果敢に突き進もうとする勇気とが複雑に同居していることでしょう。この問題集は、そうした皆さんの勇気に大いなる信頼を寄せて、いっさいの妥協を捨てるところから出発して作り上げたものです。ただ小手先の受験テクニックに逃げるのではなく、また、教科書レベルを超えた難問を「悪問」として片付けるわけでもありません。この問題集のねらいは、近年の早大の典型的な入試問題を題材に、教科書レベルを超えながらも早大への合格をめざす受験生が押さえるべきポイントを皆さんに明示することで、皆さんが日頃の世界史学習を通して獲得した基本知識に磨きをかけることにこそあるのです。

この問題集では、皆さんの学習を効果的なものにするために、各ユニット(1~24)ごとに **Step 1・Step 2** の2段階の構成をとっています。

**Step 1** …近年の早大入試より厳選した入試問題

**Step 2** …各テーマに関連した正誤問題など(おもに早慶大で問われたものより厳選)

それぞれの段階ごとに問題にチャレンジしていき、各 **Step** ごとの解説を参照することで知識の確認を図ることができ、また、解説の随所に登場する「ここで差がつく!」などの図表やコラムによって細かな関連事項を習得していけば、早大への合格にぐっと近づいていけるはずです。また、本書の姉妹編である「慶應大世界史」もあわせて活用すれば、さらに効果は上がるでしょう。

夢は叶うものではなく叶えるもの。やり遂げる勇気こそが合格につながるのです。千里の道も一歩から。志望大学への合格を「永遠の都ローマ」に喩えるなら、皆さんの進むべきすべての道は、必ずローマに通じていることでしょう。

さあ、皆さん、そろそろ始めていきましょうか! ここから先の道先案内は、私たちにおまかせください。皆さんの健闘を祈ります。

著者一同

# 目次

- 1 古代ギリシア・ヘレニズム……6
- 2 古代ローマ史（ビザンツ帝国まで）……12
- 3 イスラム史……20
- 4 中世ヨーロッパⅠ（キリスト教史）……26
- 5 中世ヨーロッパⅡ（政治史）……32
- 6 近世ヨーロッパⅠ（宗教改革）……40
- 7 近世ヨーロッパⅡ（フランスの絶対主義）……46
- 8 近世ヨーロッパⅢ（ヨーロッパの海外進出）……53
- 9 ヨーロッパ文化史（古代～近代の自然科学）……62
- 10 中国史Ⅰ（政治史）……71
- 11 中国史Ⅱ（制度史）……78
- 12 中国史Ⅲ（経済史）……83
- 13 中国史Ⅳ（文化史）……88
- 14 北方民族史・内陸アジア史……95
- 15 産業革命……102
- 16 アメリカ合衆国史Ⅰ（独立革命）……110
- 17 アメリカ合衆国史Ⅱ（西部開拓史）……115
- 18 アメリカ合衆国史Ⅲ（外交史）……122
- 19 欧州現代史Ⅰ（19・20世紀のヨーロッパ）……130
- 20 欧州現代史Ⅱ（第一次世界大戦とヴェルサイユ体制）……138
- 21 欧州現代史Ⅲ（ヨーロッパの統合）……144
- 22 ロシア・東欧史……149
- 23 アジア近現代史Ⅰ（アジア地域の従属と植民地化）……162
- 24 アジア近現代史Ⅱ（第三勢力の台頭）……167

(b) ア 「三武一宗の法難」とは、中国史上4人の皇帝による仏教弾圧事件です。このうち845年の唐の武宗による弾圧は「会昌の廃仏」とも呼ばれ、仏教だけでなく三夷教（前期）も弾圧されました。

- 三武一宗の法難**
- ①446年 北魏の太武帝
  - ②574年 北周の武帝
  - ③845年 唐の武宗（会昌の廃仏）
  - ④955年 後周の世宗

設問C 「南海寄帰内法伝」 義浄は、玄奘より少し

後の高宗から則天武后の時代にかけての唐の僧で、海路インドへ往復し、やはりナラング僧院に学びました。彼は、往復ともにスマトラ島のシュリーヴィジャヤ（室利仏逝）に立ち寄り、その旅行記『南海寄帰内法伝』は、帰路シュリーヴィジャヤの都パレンバンで書かれたものです。

## II 中国文学史（教育学部）

設問1

(a) オ 董其昌は、明代の文人画家なので「元代の文化」ではありません。ちなみに、中国絵画史は右の図の通りです。技巧的・緻密な院体画（北宋画）と自由な文人画（南宋画）の違いで区別してください。

(b) オ 「長生殿傳奇」は、清代の戯曲なので元曲ではありません。

(c) イ 「西遊記」は、明代の呉承恩による完成です。

(d) ア 女性の足の发育を幼い頃から抑制し小さくしておく纏足は、五代十国時代に始まったといわれ、南宋以降一般化した風習であって、満洲人の風習ではありません。

(e) イ 「四庫全書」は、清の乾隆帝の命で、集められる限りの古今の書物を、経（儒学）・史（歴史）・子（思想）・集（詩文）の4部（四庫）に分類して編集した大叢書で、全国7ヵ所に四庫全書館が置かれました。

(f) ウ 洪秀全は、科挙に落第して上帝会を始めましたから「元科挙官僚」ではありません。なお、科挙は隋の文帝（楊堅）により開始され、袁世凱らによる清末の改革で廃止される1905年まで続いた試験制度ですが、明から清にかけて中国を訪れたイエズス会宣教師らによってヨーロッパに紹介され、家柄によらない人材登用の制度として注目されました。貴族と平民の差別の歴然たる旧制度（アンシャン・レジーム）を批

## 中国絵画史

(東晋)	顧恺之「画聖」「女史箴图」	
(初唐)	阎立本（人物画で有名）	
(盛唐)	李思训 王维（詩人、文人画の祖）	
(北宋)	徽宗 翰林图画院 李公麟 米芾	李公麟 米芾
(南宋)	马远 夏珪 梁楷	牧谿
	院体画 (北宋画)	文人画 (南宋画)
(元)		趙孟頫（趙子昂） 元末四大家 (黄公望、倪瓚、呉鎮、王蒙)
(明)	仇英	沈周（比石田） 文徵明（文衡山） 董其昌「画禅室隨筆」
(清初)		石涛 八大山人（朱耷）} 清に抵抗

## Step 2

- (1) 第二次産業革命に関して、間違った記述はどれか。(早大・商)
1. 石炭と電力を動力として用いるようになった技術革新である。
  2. 合成染料、ゴム、肥料といった化学合成物質が発明された。
  3. 鉄鋼や、アルミニウムなどの非鉄金属といった産業が発展した。
  4. 電話、ラジオ、自動車などが実用化された。
- (2) アメリカの移民に関する以下の説明の中で誤っているものはどれか。1～6のなかから2つ選びなさい。(慶大・商)
1. 中国人排斥法(1882年)、日米紳士協約(1907年)により移民流入を制限し、その後、国別割り当て枠を設けた法律の成立により移民数は激減した。
  2. 1840年代にアメリカへの移民が多くなったが、このころから反カトリック感情も強く、20世紀初頭にはそれが顕在化した。
  3. 1880年頃までは西ヨーロッパや北ヨーロッパからの移民が中心であったが、1880年代から第一次世界大戦までの時期には南欧・東欧からの移民が急増した。
  4. アジアからの移民は西海岸に移住し低賃金の未熟練労働者として、また北欧系の移民は南部に移住し、農場労働者として働いた。
  5. 移民のなかには「鉄鋼王」カーネギーのように一代で巨額の富を築いたものもいたが、多くの移民は貧しさから抜け出せず、アメリカ社会に同化しないものも多かった。
  6. 先住民と移民の間に対立があり、先住民であるインディアンは追放されたり、武力で討伐されたが、1866年には市民として平等に社会に参加できる公民権が与えられた。

### ■解答・解説■

- (1) 1 石炭は、すでに第一次産業革命において動力として用いられています。第一次産業革命と第二次産業革命の違いは下の表を確認しましょう。

#### ここで差がつく！—— 第一次産業革命と第二次産業革命

##### 第一次産業革命

- ・燃料は石炭、動力は蒸気力、外燃機関を使用、軽工業（繊維など）中心
- ・他国にさきがけて産業革命が起こったイギリスが圧倒的優位

##### 第二次産業革命

- ・石炭から石油へ、蒸気力から電力へ、外燃機関から内燃機関へ移行
- ・重化学工業（鉄鋼など）中心
- ・アメリカ、ドイツの台頭（19世紀末の鉄鋼生産量は米＞独＞英）